

道徳

第7学年

呉市立広南中学校

指導者 T 1 西本樹里

指導者 T 2 山崎聖子

主題名

いじめのない集団

教材名

さかなのなみだ（日本文教出版『あすを生きる1』）

内容項目 C-（11）公正、公平、社会正義

本単元で育成する資質・能力

思考・表現

協力・協働

- 1 対象・日時 第7学年A組 男子12名 女子11名 計23名
令和6年6月13日（木） 第5校時

2 主題設定の理由

- 本主題は、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』のC-（11）「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」に基づくものである。

学級や部活動において、よりよい集団を実現するためには、好き嫌いの感情に流されず他者に対して偏見をもたないよう努めることや、自分と同様に他者を尊重し、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとするのが大切である。また、集団内のいじめや不正に対して、「見て見ぬふりをする」、「避けて通る」といった態度ではなく、「いじめや不正な言動を許さない」たくましい態度がとれることが重要である。

- 本学級の生徒は、学習面や生活面において困ったときには、「お互い協力し合って解決しよう」とする姿が多く見られる。全体的に仲が良く、いじめやいじめにつながるようなトラブルは見られない。5月に実施した「生徒アンケート」では、次のような結果が見られた。

生徒アンケート 質問項目	肯定的回答率
友だち関係に満足している。	90.5%
あなたをよくわかってくれる友だちがいる。	95.2%
みんなで協力し合って、よりよい学級や学校をつくらうとしている。	100%
いじめは、どんな理由があっても、いけないことだと思う。	100%
いじめを見たり聞いたりしたとき、いじめをやめさせようとすることができる。	90.5%

生徒の肯定的回答率は高かったが、学級の中には、相手のことを考えず自分の思いをぶつけてしまったり、他者の意見に同調し自分の思いをうまく伝えられず喧嘩をしたりする生徒がいる。今後、集団で様々な経験を積み重ねる中で、自己中心的な言動をとったり、自己中心的な考え方から他者に対して不公平な態度をとったり、周囲で不公正なことが起きても多数の意見に同調して傍観したり、といったことが起きるかもしれない。

そこで、本授業を通して、よりよい集団を築くために、いじめ等に対して見てみぬふりをせず、自己と向き合い、お互いに協力して正義や公正を実現しようとする態度を育てる必要があると考える。

- 本教材では、自分が中学生のときに、友人や先輩が無視される状況を目の当たりにした筆者・さかなクンが、さかなの世界にも同じようにいじめがあると綴っている。また、仲間はずれにされた子と一緒につりをするなど、その子を孤立させないことや、好きなことに夢中になるといやなことを忘れられることを語っている。いじめやいじめにつながるトラブルを解決し乗り越えることで、いじめのないよりよい集団生活を送ることができる気付かせてくれる教材である。

指導にあたって、授業の導入では、さかなクンの写真をスクリーンに提示し、教材に興味や関心を持たせる。また、内容により共感することができるように、教材文をいきなり読むのではなく、映像を視聴させる。さらに、事前アンケート「学級の中でいじめが起きているとしたらあなたはどうする？」の考えをテキストマイニングの形で提示し、本時のめあての「いじめのない集団にするために自分ができること」を考えることにつなげる。

展開では、『『広い海のなかなら、こんなことはないのに、小さな世界に閉じこめるとなぜかいじめが始まる』のはなぜか』と問いかけ、いじめの原因を考えさせる。次に、中学生のときにいじめに接したさかなクンが、いじめる子たちにその理由を聞けなかった原因を考えさせる。その際、自分自身の考えをロイロノートで意思表示させ、全体で共有する。さかなクンの立場に立って考えることで、自分の中に「弱い自分」がいることや「言えない自分」がいる可能性に気付かせる。中心発問では、さかなクンが伝えたかったことについて考えたことを全体で交流し、いじめの問題を多面的・多角的に深く考えさせる。

終末の振り返りでは、本時の授業を通して感じたことや考えたこと、また、今後の生活に生かしたいことをノートに書かせ、よりよい集団を築くために、いじめ等に気づき、見て見ぬふりをせず、正義や公正を実現しようとする態度の育成につなげたい。

3 『よりよいクラスをめざしてプロジェクト』

before

クラス全体の仲は良いが、相手のことを考えず自分の思いをぶつけてしまったり、他者の意見に同調し自分の思いをうまく伝えられず喧嘩をしたりする。

事前活動

【学校行事】 広南学園運動会

「学級」や「縦割り班」などの集団への所属意識を高め、仲間と協力し合いながら、同じ目的に向かって活動する中で、友達の良さや知らなかった一面に気づき、お互いを認め合う心を育てる。

【道徳科】教材名：「トマトとメロン」

相田みつをさんの生き方や考え方を通じて、世間や栄誉にとらわれないで自己を磨こうとする大切さを考え、個性を生かして前向きに生きていこうとする態度を育てる。

内容項目：A-3（向上心、個性の伸長）

【Friend+1】 仲間の良いところさがし

仲間の良いところをさがし、伝え合う活動を通して、他者を尊重し、自己理解を深め、お互いを認め合う心を育てる。

【道徳科】教材名：「さかなのなみだ」（本時）

中学生のときに、友人や先輩が無視される状況を目の当たりにしたさかなクンの経験話を通して、弱い自分に気づき、自己を見つめ直すとともに、お互いに協力して正義や公正を実現するために努力し、いじめのない、よりよい集団を築こうとする態度を育てる。

内容項目：C-11（公正、公平、社会正義）

事後活動

【生徒会活動】 いじめ撲滅キャンペーン

児童委員会・生徒会を中心に行う自主的な活動を通して、児童生徒一人一人のいじめに対する問題意識を高めるとともに、「いじめは絶対許さない」という心を育てる。

【総合的な学習の時間】 運命の本ビブリオトーク

ビブリオトークを通して、工夫して効果的に表現する力を付けるとともに、それぞれが学んだことを共有する。また、他者の発表を聞いて、仲間の新しい面に気づき、仲間の良いところを認める心を育てる。

after

正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると、きちんと言い合うことができる。お互いの良さに気づき、お互いを認め合うことで、よりよい集団を実現しようとしている。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

弱い自分に気付き、自己を見つめ直すとともに、お互いに協力して正義や公正を実現するために努力し、いじめのない、よりよい集団を築こうとする態度を育てる。

(2) 学習の流れ

	学習活動	主な発問と予想される生徒の心の動き 主な発問 (○) 中心発問 (◎) 補助発問 (●) 予想される生徒の反応 (・)	指導上の留意点 (・) 評価の観点 (☆)
導入 10分 課題意識をもつ	1 さかなクンについて紹介する。	○ この人を知っていますか。どんな人ですか。 ・さかなクン。 ・魚が大好き。 ・魚にとってもくわしい。 ・魚類学者 ・東京海洋大学客員教授	・さかなクンの写真をスクリーンに提示し、教材に興味や関心を持たせる。
	2 教材「さかなのなみだ」を視聴する。	○ 動画を視聴して、どんなことを感じましたか。 ・さかなの世界にもいじめがあるなんて、驚いた。 ・仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行っていたさかなクンを優しいと思った。 ・どうしてメジナは一匹を仲間外れにして攻撃するのか、不思議に思った。 ・「広い海のなかなら、こんなことはないのに、小さな世界に閉じこめると、なぜかいじめが始まる」のはなぜだろう。	・映像を視聴することで、内容を理解し、共感できるようにする。 ・メジナが、どのようなときに一匹を攻撃するのかを押さえる。
	3 事前アンケート「学級の中でいじめが起きているとしたらあなたはどうか」の考えを共有し、本時のめあてにつなげる。	○ 広南中は生徒数が少ない学校です。他の学校と比べると、小さい学校、小さい世界です。いじめが起きる可能性があるかもしれません。事前にみんなに聞いたアンケートでは、「先生に言う」「止める」が多かったですが、みんなは本当にできるでしょうか。	・アンケートの考えをまとめたテキストマイニングを提示することにより、より自分事として考えさせる。
	めあて：いじめのないよりよい集団にするためには、自分はどんなことができるだろう。		

終 末 10 分 学習したことを 振り返る	7 今日の学習を振り返る。 個人思考（ノート） ↓ 全体交流	○ この時間を通して、あなたが感じたことや考えたこと、今後の生活に生かしたいことはどんなことでしょうか。	☆よりよい集団を築くために、いじめ等を見て見ぬふりをせず、正義や公正を実現しようとする。（記述，発表）
---	--	---	--

5 板書計画

○ さかなクンが伝えたかったこと ○ 「ぼくは、いじめる子たちに『なんで？』ときけませんでした。」 どうして聞けなかったのだろう。 ○ 「広い海のなかなら、こんなことはないのに、小さな世界に閉じこめるとなぜかいじめが始まる」のはどうしてだろう。 ④ いじめのないよりよい集団にするためには 自分はどんなことができるだろう。 さかなクンの写真	スクリーン
---	--------------